

中学校音楽科における歌唱教材の扱いに関する実態調査

齊藤 忠彦 芸術教育講座
大澤 智恵 長野県阿智高等学校

キーワード： 中学校音楽科，歌唱教材，音楽科教科書，合唱曲集

I 研究の目的

教材とは、ある教育目標を実現するために教師と子どもの間におかれ、教授・学習活動を促進するための文化的素材と定義されている¹⁾。教材について、学校教育基本法では「教科用図書（教科書）」「教科書以外の図書」「その他の教材」の3つに区分している²⁾。音楽科では、「教科書」及び「教科書以外の図書」として合唱曲集などの副教材を使用しているが、それらの教材の大半は楽曲として示されている。昭和33年告示の学習指導要領（音楽）により、教科書の中に共通教材として指定される楽曲が含まれるようになったが、平成10年告示の学習指導要領（音楽）の改訂により、中学校では歌唱共通教材が示されないことになった。さらに音楽科の授業時数が削減され、中学校教育現場では教材選択にあたり、戸惑いの声が聞かれるようになった。

そこで本研究では、平成10年告示の学習指導要領完全実施の2年目にあたる平成15年度において、中学校音楽科で扱われている歌唱教材はどのような傾向にあるのか、そしてどのような課題を抱えているかについて調査する。なお、歌唱教材とは、狭義には歌唱指導のための教材＝楽曲を意味して用いられ、広義には歌唱指導における教授・学習活動を達成するために用いられている材料のすべてを意味するとされているが³⁾、本研究における歌唱教材とは狭義の意味で扱う。

II 研究の方法

全国の公立・国立・私立中学校11,159校⁴⁾の中から300校を単純無作為抽出し、各校の音楽科主任を対象とした質問紙調査を平成15年7月に実施した。郵送による自記式質問紙法で無記名回答とした。「平成15年度に扱う予定の歌唱教材」「歌唱教材としてお薦めの曲」「歌唱教材に不足していると思われる内容」「歌唱教材の曲目構成に関する満足度」「歌唱教材について感じていること」の各項目について調査した。

III 調査結果

1 調査の概要

- (1) 調査対象： 全国の中学校音楽科教師（音楽科主任）
- (2) 調査方法： 郵送による自記式質問紙調査（全国の中学校11,159校から300校を無作為抽出）
- (3) 調査期間： 平成15年7月
- (4) 標本数： 300人
有効回答者 98名
有効回答率 32.7%

(5) サンプルの内訳

回答者の年齢構成

() は%

20代	30代	40代	50代
9 (9.2)	39 (39.8)	35 (35.7)	15 (15.3)

n=98

2 平成15年度に扱う予定の歌唱教材

表1・2は、「平成15年度に扱う予定の歌唱教材名(1年生から3年生まで)を挙げてください」⁵⁾という質問に対して、「教科書」と「教科書以外の副教材(合唱曲集など)」の2つに分けて調査した結果である。回答数の多い順に、上位10位までの曲名と、その作詞者・作曲者、拍子、テンポ、演奏時間、調性、作曲年、編成を示している。演奏時間は、「楽譜に表示されたテンポ×小節数×拍子」⁶⁾で算出したものである。調性はドイツ音名で示してある。なお、「大きな古時計」は河西保郎編曲の楽曲を採り上げたが、様々な調性や編成の楽譜が出版されているため、データはこの限りではない。また、他の楽曲についても複数の編成があるため、この表に掲載した結果と異なる場合もある。

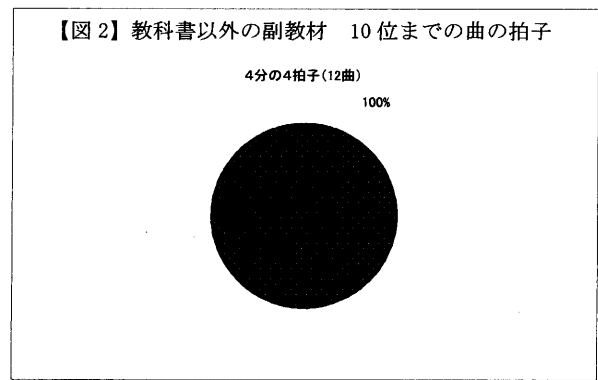
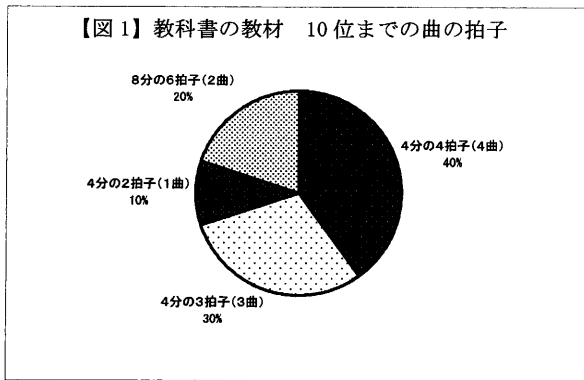
【表1】 教科書の教材 10位までの楽曲

順位	回答数	教材名	作詞者	作曲者	拍子	テンポ	演奏時間	調性	作曲年	編成
1	74	花	武島羽衣	滝廉太郎	4分の2	♩=60~66	2分00秒	G	1900	同2
2	61	夏の思い出	江間章子	中田喜重	4分の4	♩=63ぐらい	2分25秒	D	1949	同2
3	58	涙をください	山上路夫	村井邦彦	4分の4	Moderato	2分33秒	B	1972	混3(女2男1)
4	53	主人は冷たい土の中に	武井寛子	フォスター	4分の4	Andante	2分13秒	C	1852	同2
5	52	夢の世界を	法蘭明子	橋本祥路	8分の6	♩=84~92	1分38秒	C		混3(女2男1)
6	49	赤とんぼ	三木露風	山田耕筰	4分の3	♩=60	1分48秒	Es	1921	斉唱
6	49	明日という大空	三木露風	橋本祥路	4分の4	Moderato	2分11秒	C	1852	同2
8	48	エーデルワイス	ハマースタインⅡ世 / 訳: 阪田寛	リチャード・ロジャース	4分の3	Moderato	1分15秒	C	1959	同2
9	47	帰れソレントへ	徳永政太郎	デ・クルティス	4分の3	Moderato	2分31秒	C→C →C →C→ C	1904	斉唱
10	46	浜辺の歌	林古溪	成田為三	8分の6	♩=104~112	2分00秒	F	1912	斉唱

【表2】 教科書以外の副教材 10位までの楽曲

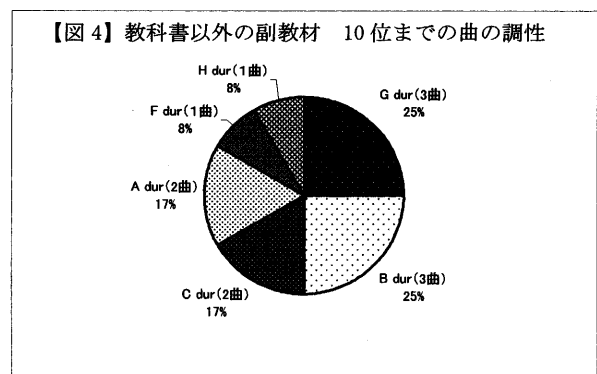
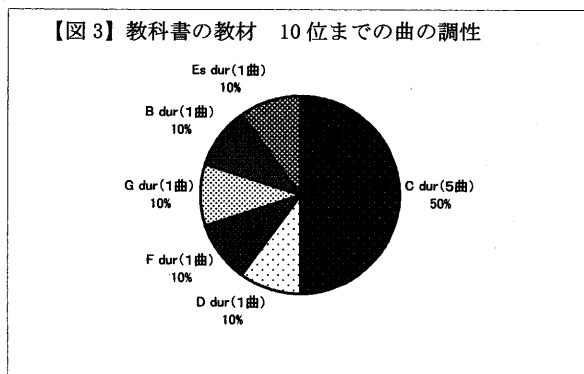
順位	回答数	教材名	作詞者	作曲者	拍子	テンポ	演奏時間	調性	編成
1	26	旅立ちの日に	小嶋豊	坂本浩美	4分の4	Moderato ♩=84 Piu mosso	3分03秒	B	1992 混3(女2男1)
2	25	心の聲	荒木とよひ	三木たかし	4分の4	♩=69ca.	5分55秒	A→B	1988 混3(女2男1)
3	24	この星に生まれて	杉本竜一	杉本竜一	4分の4	♩=96~100	3分36秒	C	1998 混3(女2男1)
3	24	時の旅人	深田じゅんこ	橋本祥路	4分の4	♩=92ca. ♩=72ca. ♩=88ca. Meno mosso	3分43秒	F d D G	1990 混3(女2男1)
5	23	あの素晴らしい愛をもう一度	北山修	加藤和彦	4分の4	♩=112	3分02秒	B→C	1971 混3(女2男1)
6	20	大地讃頌	大木傳夫	佐藤進	4分の4	♩=76	2分56秒	H	1962 混4(女2男2)
6	20	マイ・バラード	松井孝夫	松井孝夫	4分の4	♩=88ぐらい Lento	3分39秒	A	1987 混3(女2男1)
8	18	この地球のどこかで	三浦恵子	若松敬	4分の4	♩=83	3分20秒	G	1998 混3(女2男1)
8	18	春に	谷川俊太郎	木下牧子	4分の4	♩=72ぐらい ♩=80	3分30秒	B	1990 混3(女2男1)
10	17	大きな古時計	H. C. Work / 訳: 保富	H. C. Work	4分の4	Allagio Moderato	2分40秒	G	1876 混4(女2男2)
10	17	遠い日の歌	岩沢千早	橋本祥路	4分の4	Andante	2分58秒	C→A	1982 混3(女2男1)
10	17	Believe	杉本竜一	杉本竜一	4分の4	96	4分5秒	G	1998 混3(女2男1)

表1・2から次のような傾向を読み取ることができる。まず作詞者・作曲者については、ここに挙げられた曲のうち2曲以上を作詞または作曲しているのは橋本祥路、杉本竜一であるという以外に顕著な傾向は見られない。拍子について、図1・2に示す。教科書以外の副教材では10位までの全ての曲が4分の4拍子である。教科書の教材では、一般的であると思われる4種類の拍子の曲が挙げられているが、いずれにせよ4分の4拍子が多いということは特徴として挙げる事ができる。



テンポは、教科書の教材では1拍が60から90程度、教科書以外の副教材では80から110程度の範囲内に多くの曲が納まる。教科書の方が全体的に遅めであること、あまり急速なテンポの曲がないことが特徴である。演奏時間は3分程度までのものが多く、教科書以外の副教材の方が長めである。

調性について、図3・4に示す。途中で転調する曲も多いが、それらについては曲の冒頭部分の調性を仮にその曲の調性として扱った。教科書以外の副教材の調性の方が多岐にわたっている。音階は教科書の教材、教科書以外の副教材ともに、そのすべてが長音階であった。



作曲年については、教科書の教材は様々な年代に作られたものが挙げられているのに対し、教科書以外の副教材は1990年前後に作られたものが多い。編成は教科書の教材には斉唱（単旋律）のものが3曲挙げられたが、その他は二部合唱のものが多い。教科書以外の副教材では、12曲中10曲が混声三部合唱であることが特徴として挙げられる。

歌詞の内容については、次のような手順で語彙分析を行った。

- ①歌詞の中に出てくる自立語を全て取り出す。
- ②それらが類語辞典の中でどの分類に属す語であるかを調べる⁷⁾。
- ③各曲で各分類に属す語がそれぞれ全自立語の何%を占めるかを算出する。
- ④10位までの曲における③の平均を算出する。

ここで見られる傾向から、歌詞の中でどのような内容が歌われているかという傾向を、おおよそではあるが客観的に把握することができよう。

分類項目「人間の体」には人の体の各部分を表す語、「人間の動作」には人の動きや行動を表す語、「人間の性質」には性格・美醜・能力・感情などに関する語、「一生」には家族・恋愛・境遇・運命などに関する語、「衣食住」には衣服や生活用品・食品など日常生活に関する語、「社会生活」には職業・金銭・政治・産業など社会に関する語、「文化」には宗教・道徳・芸術・趣味などに関する語、「自然」には天体・風景・自然現象などに関する語、「事柄・性質」には真偽・ものの性質・時間・価値などに

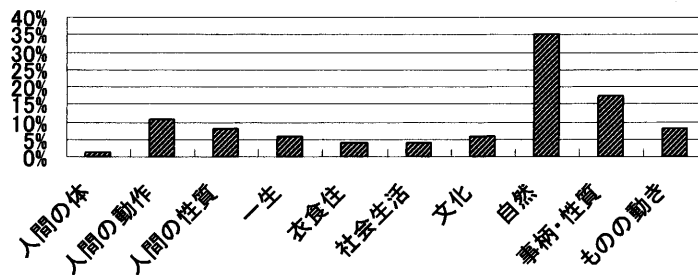
関する語,「物の動き」には,存在・移動・影響などに関する語がそれぞれ分類される。

語彙分析の結果を表3・図5,表4・図6に示す。これらを見ると,教科書の教材には自然に関する語が,教科書以外の副教材には事柄・性質を表す語が多く出現している。教科書の教材での歌詞の題材となっているものには自然に関係したものが多く,教科書以外の副教材では価値観やものの性質というような抽象的なテーマを歌ったものが多いことがわかる。また,文化,社会生活,衣食住,一生などの項目に分類されるようなテーマの内容はあまり扱われていない。

【表3】教科書の教材 10位までの曲の歌詞についての語彙分析の結果

	1:花	2:夏の思い出	3:翼をください	6:主人は冷たい土の中に	4:夢の世界を	赤とんぼ	10:明日という大空	4:エーデルワイス	6:帰れソレントへ	浜辺の歌	平均
人間の体	2.4%	1.7%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	4.8%	1.3%
人間の動作	2.4%	10.0%	9.8%	19.4%	18.9%	19.2%	4.7%	4.3%	11.3%	7.1%	10.7%
人間の性質	4.8%	13.3%	17.6%	8.3%	7.5%	0.0%	7.0%	4.3%	11.3%	4.8%	7.9%
一生	4.8%	0.0%	3.9%	0.0%	5.7%	11.5%	9.3%	13.0%	4.2%	7.1%	6.0%
衣食住	7.1%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	7.7%	4.7%	2.2%	1.4%	4.8%	3.9%
社会生活	2.4%	0.0%	5.9%	0.0%	3.8%	7.7%	7.0%	6.5%	8.5%	0.0%	4.2%
文化	14.3%	1.7%	2.0%	2.8%	13.2%	3.8%	4.7%	2.2%	7.0%	4.8%	5.6%
自然	40.5%	38.3%	25.5%	33.3%	18.9%	34.6%	30.2%	47.8%	35.2%	45.2%	35.0%
事柄・性質	9.5%	23.3%	15.7%	22.2%	13.2%	7.7%	27.9%	17.4%	16.9%	19.0%	17.3%
ものの動き	11.9%	11.7%	17.6%	2.8%	18.9%	7.7%	4.7%	0.0%	4.2%	2.4%	8.2%

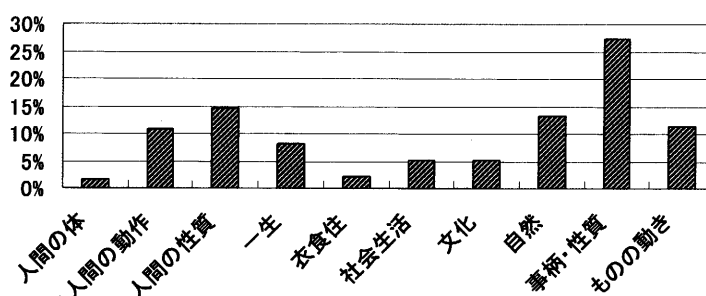
【図5】歌詞中の各分類に属する語彙の割合(教科書の教材 10位までの曲の平均)



【表4】教科書以外の副教材 10位までの曲の歌詞についての語彙分析の結果

	旅立ちの日に	心の瞳	この星に生まれて	時の旅人	あの素晴らしい愛をもう一度	大地讃頌	この地球のどこかで	春に	大きな古時計	遠い日の歌	Believe	平均
人間の体	0.0%	2.9%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	2.1%	4.1%	2.8%	0.0%	3.5%	1.6%
人間の動作	14.6%	19.0%	14.6%	11.5%	10.0%	2.0%	13.8%	15.3%	2.8%	6.7%	9.4%	10.9%
人間の性質	16.9%	19.0%	18.3%	11.5%	16.7%	8.2%	12.8%	13.3%	5.7%	15.6%	23.5%	14.7%
一生	3.4%	9.5%	2.4%	13.3%	4.4%	18.4%	10.6%	4.1%	9.4%	6.7%	8.2%	8.2%
衣食住	0.0%	1.0%	1.2%	4.4%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	15.1%	0.0%	2.4%	2.3%
社会生活	7.9%	1.9%	0.0%	5.3%	2.2%	20.4%	7.4%	3.1%	2.8%	2.2%	2.4%	5.1%
文化	4.5%	2.9%	1.2%	9.7%	4.4%	2.0%	3.2%	7.1%	1.9%	17.8%	2.4%	5.2%
自然	19.1%	2.9%	18.3%	14.2%	6.7%	30.6%	16.0%	9.2%	7.5%	13.3%	7.1%	13.2%
事柄・性質	30.3%	27.6%	31.7%	14.2%	44.4%	16.3%	20.2%	29.6%	31.1%	28.9%	27.1%	27.4%
ものの動き	3.4%	13.3%	9.8%	14.2%	10.0%	2.0%	13.8%	14.3%	20.8%	8.9%	14.1%	11.3%

【図6】歌詞中の各分類に属する語彙の割合（教科書以外の副教材 10位までの曲の平均）



3 歌唱教材としてお薦めの曲

表5は、「中学生の歌唱教材として、あなたのお薦めの曲を5曲ほどお書きください」という質問に対する回答で、上位10位までの楽曲を示した。前項で示した「平成15年度の扱う予定の歌唱教材」上位10曲と異なる教材もある。「夏の日のごり物」「COSMOS」「少年時代」「朝の風に」の4曲である。

【表5】お薦めの歌唱教材

回答数	曲名	作詞者	作曲者
19	大地讃頌	大木 惇夫	佐藤 眞
19	旅立ちの日に	小嶋 登	坂本 浩美
14	マイバラード	松井 孝夫	松井 孝夫
13	この星に生まれて	杉本 竜一	杉本 竜一
13	夢の世界を	扶龍 明子	橋本 祥路
11	夏の日のごり物	高木あきこ	加賀 清孝
12	時の旅人	深田じゅんこ	橋本 祥路
6	COSMOS	ミ マ ス	ミ マ ス
5	夏の思い出	江間 章子	中田 喜直
7	花	武島 羽衣	滝 廉太郎
4	帰れソレントへ	徳永政太郎 (訳)	デ・クルティス
7	春に	谷川俊太郎	木下 牧子
4	少年時代	井上 陽水	井上 陽水
5	朝の風に	安西 薫	長谷部匡俊

4 歌唱教材に不足していると思われる内容

表6は、「中学校の歌唱教材（教科書や副教材に掲載されている曲目）に不足していると思われる内容について、あなたのお考えをお聞かせください」という質問に対する回答結果である。選択肢は「不足している」「やや不足している」「あまり不足していない」「不足していない」の4段階とした。不足していると思われる内容の程度を点数化して示すことができるように、「不足している」を3点、「やや不足している」を2点、「あまり不足していない」を1点、「不足していない」を0点とし、合計した数値を表6の「計」に示した。その得点をグラフ化したものが図7である。

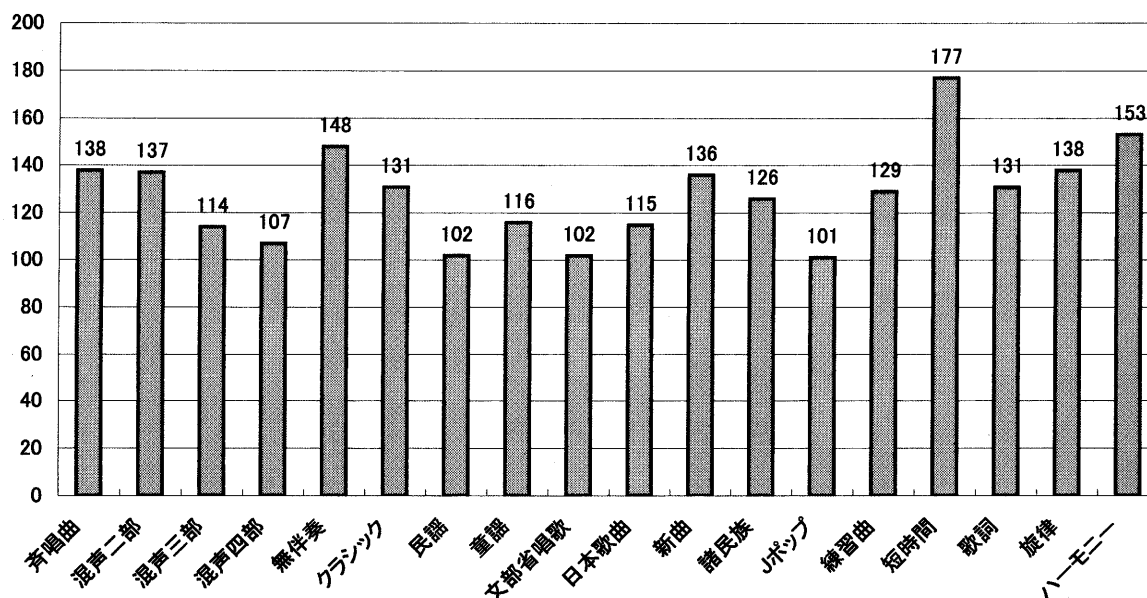
曲の形態は「無伴奏曲」が148点と最も高く、続いて「斉楽曲」が138点、「混声二部合唱」が137点であった。曲のジャンルは「新曲（現在の作曲家の作品）」が136点と最も高く、続いて「クラシック（アレンジを含む）」が131点、「練習曲（発声練習、ソルフェージュ）」が129点であった。その他では「短時間で歌える曲」が177点と最も高く、「ハーモニーが美しい曲」が153点、「旋律が美しい曲」が138点であった。全体の中で、歌唱教材に不足していると思われる内容の第1位は「短時間で歌える曲」であった。

【表6】歌唱教材に不足していると思われる内容

() 内は点数化した数値

	不足していると思われる内容	不足している	やや不足している	あまり不足していない	不足していない	計
形態	斉楽曲	15 (45)	26 (52)	41 (41)	9 (0)	138
	混声二部合唱曲	12 (36)	31 (62)	39 (39)	9 (0)	137
	混声三部合唱曲	10 (30)	16 (32)	52 (52)	13 (0)	114
	混声四部合唱曲	10 (30)	15 (30)	47 (47)	19 (0)	107
	無伴奏曲	21 (63)	30 (60)	25 (25)	15 (0)	148
ジャンル	クラシック（アレンジを含む）	9 (27)	37 (74)	30 (30)	15 (0)	131
	民謡	4 (12)	21 (42)	48 (48)	18 (0)	102
	童謡	10 (30)	21 (42)	44 (44)	16 (0)	116
	文部省唱歌	6 (18)	19 (38)	46 (46)	20 (0)	102
	日本歌曲	3 (9)	33 (66)	40 (40)	15 (0)	115
	新曲（現在の作曲家の作品）	18 (54)	19 (38)	44 (44)	10 (0)	136
	世界の諸民族の音楽	9 (27)	26 (52)	47 (47)	9 (0)	126
	Jポップ	7 (21)	17 (34)	46 (46)	21 (0)	101
	練習曲（発声練習・ソルフェージュ）	9 (27)	36 (72)	30 (30)	16 (0)	129
その他	短時間で気軽に歌える曲	22 (26)	46 (92)	19 (19)	4 (0)	177
	歌詞の内容が濃い曲	12 (36)	25 (50)	45 (45)	9 (0)	131
	旋律が美しい曲	12 (36)	30 (60)	42 (42)	7 (0)	138
	ハーモニーが美しい曲	13 (39)	42 (82)	30 (30)	6 (0)	153

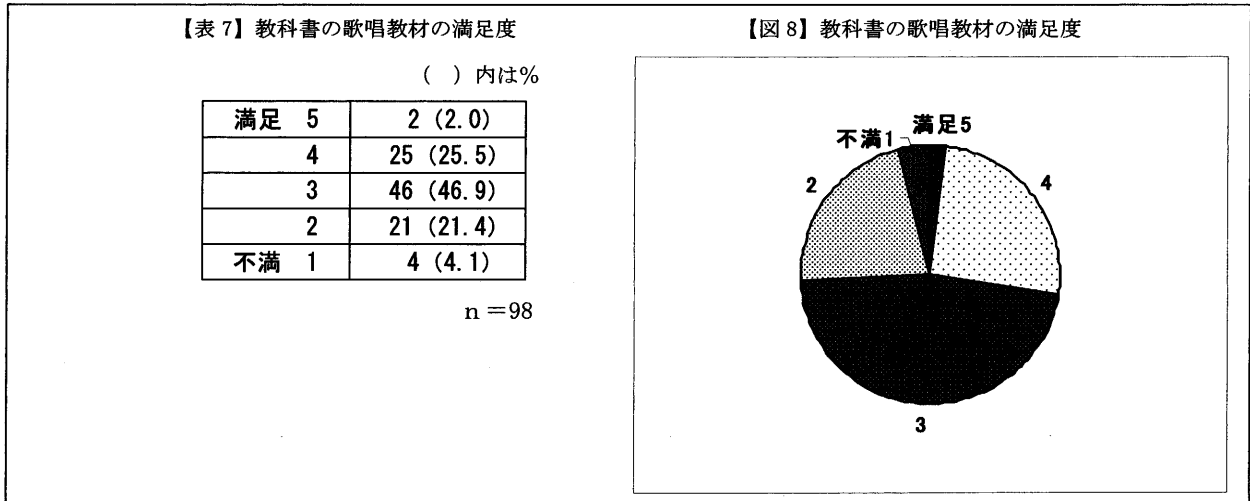
【図7】歌唱教材に不足していると思われる内容（点数化）



5 歌唱教材の曲目構成に関する満足度

(1) 教科書の教材の曲目の構成に関する満足度

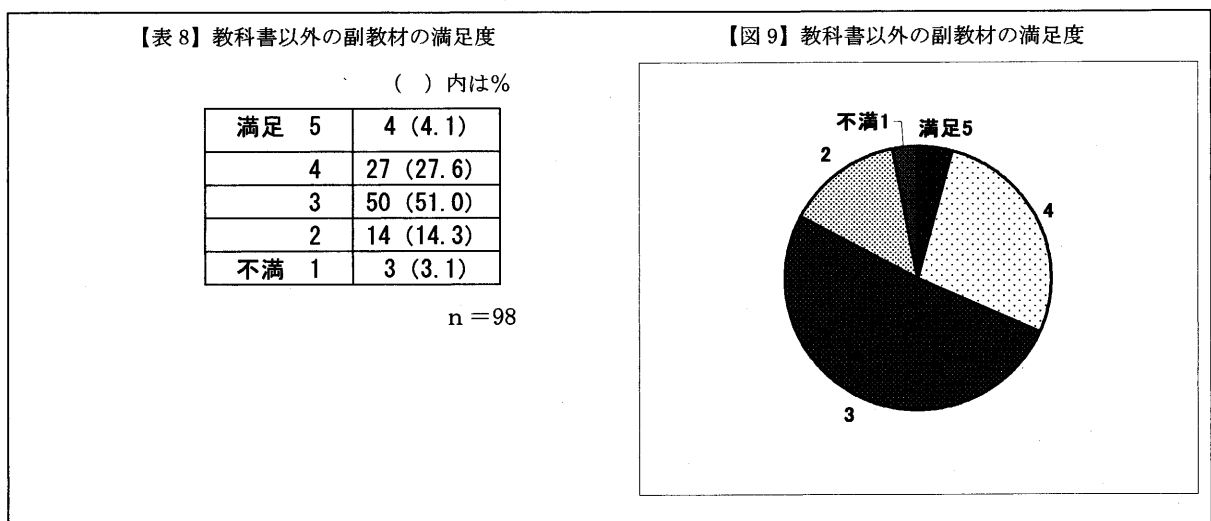
表7・図8は、「教科書に掲載されている歌唱教材の曲目の構成について、あなたはどのように感じていますか」という質問に対する回答結果である。選択肢は「満足している」を「5」、「不満である」を「1」とし、その間の指標を「4」「3」「2」と示した。満足傾向「5」「4」を合わせた人数は27人(27.5%)と、不満傾向「1」「2」を合わせた人数は25人(25.5%)であった。



(2) 教科書以外の副教材(合唱曲集など)の曲目構成に関する満足度

表8・図9は「副教材(合唱曲集など)に掲載されている歌唱教材の曲目の構成について、あなたはどのように感じていますか」という質問に対して、「満足している」を「5」、「不満である」を「1」とし、その間の指標を「4」「3」「2」と示した。満足傾向「5」「4」を合わせた人数は31人(31.7%)に対して、不満傾向「1」「2」を合わせた人数17人(17.4%)であった。

教科書と副教材を比較すると、副教材の曲目の構成の方が音楽教師の満足度が高いことがわかる。



6 歌唱教材に関する自由記述

表9は、「中学校音楽科の歌唱教材について感じていることをお書きください」という自由記述式の問に対する回答を、内容別にまとめたものである。ここでは代表的な意見を掲載する。歌唱教材の現状について肯定的な意見が5人であるのに対し、歌唱教材への不満や要望に関する内容は63人であった。要望の中で最も多かったのは、「教科書の楽曲について」(15人)である。生徒たちが歌いたいと思う曲が不足しており、教科書の歌唱教材は扱いにくいという意見が多かった。教科書はあまり使っていないという学校があることも明らかになった。続いて多かったのは、「授業時数の削減、短時間で歌える曲を」(13人)である。授業時数が削減され、十分に練習できる時間がないので、短時間で歌える楽曲を増やしてほしいという意見が多かった。具体的な楽曲に関する要望は、「日本の歌を」(8人)、「ポップスについて」(6人)、「変声期・音域の配慮を」(4人)、「歌詞について」(4人)、「合唱形態について」(4人)、「あえて難曲を」(3人)、「基礎練習曲を」(3人)に示されている。日本の音楽に関する記述は多く、唱歌や童謡など日本の伝統的な楽曲を増やしてほしいという意見が目立った。ポップスについては賛否両論であったが、生徒の意欲を高め気軽に歌えるという立場から積極的に掲載すべきという意見の方が多かった。その他、変声期や音域に配慮した曲を、歌詞の内容は理解しやすい曲を、ア・カペラの曲を、あえて難曲を、コンコーネのような基礎練習曲を等の意見がみられた。「共通教材について」(3人)は、改訂前のように歌唱共通教材は示した方がよいという立場の意見であった。

【表9】歌唱教材について感じていること(自由記述式)

()は人数、人数が多い順に掲載

<p>教科書の楽曲について (15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の曲はあまり使いません。副教材もこの本はというのが決まらなくて毎年、一番良いと思われるものを選んでいますが・・・。 ・教材(教科書)の中には、生徒たちが「歌いたい」と思う曲が不足しているように感じる。副教材でよく使われている曲をぜひ教科書に採り入れるようにしないと教科書を使わなくなっていくのではないか。 ・教科書というそのものが子どもたちにとってかたいもののようにとらえられているようです。 ・生徒が楽しんで歌えるものが少ないと感じる。
<p>授業時間の削減、短時間で歌える曲を (13)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時数が減り、十分に練習できる時間が少ないため、もう少し短時間で完成できるような教材ならば生徒も達成感を味わうことができるように思う。 ・授業時数が少ないので、1~2時間で仕上げられ、ハーモニーの美しい曲を増やしてほしい。本格的な合唱曲は校内合唱コンクールの時ぐらいにするしかない。 ・副教材として気軽に歌える曲集を持たせたいと思っているが、難しすぎてなかなか歌えないものが多い。歌集では簡単すぎる。音楽の時数も少ないので、多くの教材は扱えない。もっと時数が増えれば、いろいろな歌がうたえるのに。 ・授業時間数が少なくなっているため、短時間でできる簡単な曲を増やしてほしい。
<p>日本の歌を (8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くから日本人が歌い継いできた歌、歌い継がれてきている歌(文部省唱歌)をもっと教科書に取り入れて、世代を越えてどんどん歌っていくことが大切だと思います。(「夏は来ぬ」「海」「我は海の子」「里の秋」「冬景色」など)それには、小学校からもっと導入し、美しいに日本の情景を想像し、豊かな情操を育てていくことが重要な課題だと思っています。 ・共通教材という枠がなくなって、いろいろな曲を選んでいますが、童謡・唱歌の扱いが少なくなってしまったように感じています。教科書には、残して生きたい曲を載せていただき、資料という形でもまた鑑賞になってしまっても生徒に触れさせるようにしたいと思っています。 ・やはり日本の歌を大事にしていきたいものである。

<p>ポップスについて (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の時数が少ないので、大変であるが気軽に歌えるポピュラー系の曲がほしい。アレンジ次第とは思いますが、できるだけ歌いやすい範囲がよい。勝手な願いである。 ・日本ポップなものをもっと掲載してほしい。例「少年時代」 ・新しいJポップはアレンジがいまひとつなので、無理に入れなくても良いと思う。(30)
<p>肯定的な意見 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽が多様化する中、選曲は苦心の跡が見られる。 ・歌詞が中学生に共感できるものが多くあり、心に訴えることができますと思います。 ・親しみやすい曲が多くなってきている。
<p>変声期・音域の配慮を (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変声期前後の生徒が含まれる学年(1学年後半)にとって、歌いやすい指導しやすい教材が少ない。 ・合唱曲には、変声期を配慮した曲をもっと増やしてほしい。 ・音域に配慮した曲をもっとほしい。
<p>歌詞について (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「旅立ちの日に」「心の瞳」「With you smile」「旅立ちの時」などの曲を好むようです。昔みたいに詩の意味を説明しないとわからないような曲は、今の授業時数ではこなせないです。 ・合唱曲以外の曲は歌詞の内容が道徳的すぎたり、現実感からかなりかけ離れていて、表現しようとするときに薄い現実がある。
<p>合唱形態について (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア・カペラをもっと充実させてほしい。 ・四部合唱の簡単な曲がほしい。
<p>あえて難曲を (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感受性の強い年頃なので、内容の濃いものであれば少々難曲でも挑戦しようとする意欲が高い生徒は質の高いものを望んでいると考える。
<p>基礎練習曲を (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンコーネを教科書や歌集に入れることはできないだろうか。
<p>共通教材について (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間削減とともに学校裁量の部分が増えていますが、改訂前のように共通教材をして指定した方がポイントが絞れるし、共通の話題として研修会などで取り上げるなどのメリットが多い。まかせられると偏ったり中途半端な扱いになってしまうからです。

IV 考察

平成15年度に扱う予定の歌唱教材の中で、上位10曲に挙げられた歌唱教材の分析から、次のような傾向を見出すことができた。

歌詞の内容は、自然に関する語や事柄・性質(真偽、時間、価値など)に関する語が多く含み、特に教科書の教材では自然の美しさを歌ったものが目立つ。楽曲の編成は2部合唱と3部合唱が中心で、拍子は4分の4拍子が多い。特に教科書以外の教材では、そのすべてが4分の4拍子である。調性は多岐にわたっているが、音階を見ると、そのすべてが長音階である。テンポは1拍が60～110程度の範囲内で、演奏時間は3分程度のものである。作曲年は教科書の教材ではその年代にばらつきがあるが、教科書以外の教材は1980年以降の比較的新しい楽曲が多い。中学校教育現場で扱われている歌唱教材は、歌詞の内容や楽曲の特徴に、このような偏りが生じていることが明らかになった。

アンケート調査の自由記述欄に「教科書の曲は授業ではほとんど使えない」という衝撃的な記述が見られたが、全体としても教科書や教科書以外の歌唱教材に満足している(満足傾向)と回答した音楽科教師は3割程度に留まっていることは残念な結果であった。

このような実態の中で、今後の歌唱教材の在り方を考えるとき、次のような視点が重要となってく

るだろう。まず、授業時数の削減という現状の中で、短時間で仕上げるができる歌唱教材の充足を図るという点である。具体的には、斉唱曲、2部合唱曲、そして簡単に歌える無伴奏曲などが求められている。次に、歌詞の内容の拡大を図るという点である。自然や事柄・性質という内容に偏るのではなく、生徒たちの身近にある文化、社会生活、衣食住、一生などの語彙を含むような歌詞にも目を向けるべきであろう。続いて、楽曲のジャンルの拡大を図るという点である。具体的には、現代の作曲家による新しい合唱曲、クラシックのアレンジ曲、練習曲（発声練習・ソルフェージュ等）が不足している。童謡や唱歌など日本の伝統的な歌曲を大切にしていきたいという意見や、生徒たちが意欲的に取り組むことができるポップス系の曲もアレンジを工夫して取り入れてほしいという意見も見逃すことはできない。その他、拍子や調性、テンポなどの楽曲を構成する要素の拡大にも目を向ける必要性がある。

これまでに見てきたような歌唱教材の傾向と課題に留意した上で、今後、教科書の教材や教科書以外の副教材の見直していく必要性がある。そのためには、さらに教育現場や生徒の実態を把握していくこと、音楽科の学習内容に視点をあてた歌唱教材の配列や系統化に関する考察が必要となるだろう。これらは今後の研究の課題としたい。

注

- 1) 細谷俊夫他 (1990) 『新教育学大事典』第一法規出版, p. 438
- 2) 「学校教育法」第 21 条に規定されている。
- 3) 日本音楽教育学会編 (2004) 『日本音楽教育事典』, p. 234
- 4) 平成 14 年度, 文部科学省の調査による全国の中学校の学校数
- 5) 平成 15 年度に扱う予定のすべての曲名を書き入れることは手間取るため、別紙として「歌唱一覧表」を用意し、その中から選択して回答できるようにした。

次に掲載する教科書と副教材に掲載されている歌唱教材, 計 355 曲の曲名 (作曲・作者も含む) を「歌唱曲一覧表」に掲載した。

【教科書】

『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2-3 上』『中学生の音楽 2-3 下』教育芸術社 (2002)

『中学音楽 音楽のおくりもの 1』『中学音楽 音楽のおくりもの 2・3 上』『中学音楽 音楽のおくりもの 2・3 下』教育出版 (2002)

【副教材】

『改訂若い翼は』教育芸術社 (1998)

『ニューコーラスフレンズ』教育芸術社 (1999)

『コーラスランド』教育芸術社 (1998)

『ニューヒットコーラス パール版』音楽之友社 (1999)

『ワンダーコーラス』音楽之友社 (2001)

『トゥモロー』音楽之友社 (1998)

『マイソング』教育芸術社 (1998)

- 6) 数字での表示のないものは, 1 拍を Lento: 72 / Andante: 76 / Moderato: 100 / Allegro Moderato: 108 / Allegro: 130 として計算した。

- 7) 単語分類は, 遠藤織枝他編『使い方の分かる 類語例解辞典』小学館 (1994) に基づいて行った。

(2005年9月26日 受理)